

たまねぎレポート【第390号】



令和2年4月27日

阪南青果株式会社

社内報

3月の天候は、北・東・西日本では、気温はかなり高かった。降水量は、北日本の太平洋側でかなり多かった。北・西日本と東日本の日本海側では、日照時間が多かった。4月は例年に比べ、桜の開花後に花冷えの気温の低い日が多かった。

気象庁の5～7月の3か月予報では、平均気温は全国で平年並み亦は高い確率ともに40%。と報告されている。月別予報は次の通り。

5月、北日本と東日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わる。東日本の日本海側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

6月、北日本と東日本の日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わる。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側と西

日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の荷日が多い。

7月、北日本と東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側と西日本では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

3月の建値市場の野菜の販売量は、218,506トン前年比100%、市場別には多少のバラツキがあり、名古屋、東京市場以外は前年比減であった。総平均単価はkg ¥229前年比106%で、いずれの市場も前年比高となっている。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比91%、平均単価はkg ¥194前年比102%。東京市場の販売量は前年比101%、平均単価はkg ¥244前年比106%。名古屋市場の販売量は前年比102%、平均単価はkg ¥216前年比105%。大阪本場は前年比99%の販売量で、平均単価はkg ¥227前年比106%。福岡市場は前年比99%の販売量で、平均単価はkg ¥180前年比107%となっている。

建値市場の3月の玉葱販売量は29,590トン前年比103%で、前月に続き札幌市場以外は前年比増となっている。総平均単価はkg ¥74前年比61%で、依然価格安が続いた。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は3,386トン前年比95%、平均単価はkg ¥55前年比51%。東京市場の販売量は12,237トン前年比116%、平均単価はkg ¥76前年比58%。名古屋市場の販売量は7,173トン前年比109%、平均単価はkg ¥77前年比67%。大阪本場の販売量は4,202トン前年比113%、平均単価はkg ¥73前年比5

6%。福岡市場の販売量は2,592トン前年比110%、平均単価はkg¥84前年比71%となっている。いずれの市場も、平均単価は前年比大幅安で、3月も好転の兆しは見えなかった。産地市場を兼ね集散機能を持つ札幌市場の数量減が異常である。

日本農業新聞社の集計値によると、主要7地区の代表荷受7社の3月の主要野菜14品目の販売量は、94,045トン前年比1%増、平均単価はkg¥141前年比8%高となり低迷期を脱した動きとなった。タマネギだけは北海産の在庫が豊富で、販売量増の大幅な価格安となった。販売量が前年比増の品目は、サトイモが前年比27%増、ジャガイモが12%増、ピーマンが8%増など9品目。前年比減の品目は、ニンジンが前年比15%減、ホウレンソウが10%減、トマトが8%減など4品目。価格が前年比高であった品目は、ハクサイがkg¥87で前年比85%高、ニンジンがkg¥143で52%高、キャベツがkg¥71で27%高など11品目。前年比安の品目は、タマネギがkg¥63で前年比38%安、サトイモがkg¥249で18%安、ネギがkg¥227で5%安の3品目となっている。

東京都中央卸売市場の3月の野菜の入荷は、124,375トン前年比101%（前月比102%）。平均単価はkg¥244前年比106%（前月比113%）となり、待望の前年比数量増の価格高となった。入荷が前年比増の品目は、バレイショが前年比128%、タマネギが116%、サトイモが115%と10品目。入荷が前年比減の品目は、ニンジンが前年比85%、ホウレンソウが91%、トマト・キャベツが92%など5品目。販売単価が前年比高の品目はハクサイがkg¥103で前年比224%、ニンジンがkg¥175で164%、キャベツがkg¥93で149%など11品目。前年比安の品目は、玉葱がkg¥76で前年比58%、サトイモがkg¥290で92%、ネギがkg¥226で93%など4品目となっている。

東京都中央卸売市場の3月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	124,375	101.1	101.9	244	105.8	113.0
た ま ね ぎ	12,237	116.2	109.3	76	57.5	92.7
キ ャ ベ ツ	18,316	92.3	111.1	93	149.3	157.6
だ い こ ん	10,224	105.0	92.3	77	100.9	111.6
は く さ い	8,079	108.9	66.1	103	223.7	202.0
ば れ い し ょ	9,236	127.7	111.5	126	110.8	140.0
レ タ ス	6,799	93.5	87.9	186	111.4	110.7
に ん じ ん	6,435	85.1	107.1	175	163.9	148.3
き ゆ う り	6,266	107.3	134.4	352	106.7	78.2
ト マ ト	5,472	91.7	114.1	458	111.8	107.0
ね ぎ	4,444	108.9	96.3	226	92.9	109.0
か ぼ ち ゃ	2,683	103.6	125.2	132	87.4	88.6
な が い も	1,095	123.4	109.0	326	97.4	111.3
れ ん こ ん	524	80.3	79.3	623	114.5	119.6
に ん に く	307	107	78.5	804	95.6	115.0

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の3月の玉葱の入荷量は12,237トン前年比116%（前月比151%）、前年比・前月比とも大幅増であった。前進出荷が続いた静岡物は切り上がりが早く、北海物はかなりの後ズレで、3月も占有率は70%を上

回った。九州産の新玉は生育前進化で、前年比大幅増となった。産地別では、北海物の入荷は、8,989トン前年比141%、占有率は74%前年比13%ポイントアップ。佐賀物の入荷は生育の前進化で1,237トン前年比121%、占有率は10%前年比0.4%アップ、静岡物は948トンの入荷で前年比46%、占有率は8%前年比12%ダウン。長崎物は680トンの入荷で前年比143%、占有率は6%で前年比1ポイントアップ。総平均単価はkg ¥76前年比58%（前月比93%）。産地別では、北海物はkg ¥57前年比43%。佐賀物はkg ¥123前年比90%。静岡物はkg ¥145前年比102%。長崎物はkg ¥123前年比109%となっている。

4月に入ってから、北海物は潤沢な入荷が続いた。生育の前進化が伝えられていた佐賀物の入荷は、期待したほど増加せず、長崎物は終盤で、上旬の入荷は前年を大きく下回った。北海物は、コロナウイルスに依る影響で学校給食を始め業務需要の低迷で、2Lの動きが鈍く、L大、Lは新物の半値の水準となったことで、概ね順調な動きであった。中旬には、新玉は佐賀物が主力で、少量の愛知物が入荷した。品質的には九州物よりも良好であったが、価格的には同値であった。新玉の入荷は日々増加傾向で、先安ムードが強まった。北海物はますますの荷動きだが、商系の一部にL大 ¥600の着値提案もあったが、品質に懸念あり何処も受付けていない。此処に来て、佐賀物の入荷が増加し、それなりに動いているものの品余り傾向が強まり、仮置き場は満杯状態となっている。北海物は、新玉ほどの在庫はないが、荷動き鈍化で在庫は増加傾向である。この先、CA貯蔵の契約物があり、受け皿探しに苦労が絶えない。

1日～20日の販売量は8,558トン前年比96%、平均単価はkg ¥67前年比53%。産地別では、北海物は4,759トン前年比102%、平均単価はkg ¥53前年比41%。佐賀物は3,142トン前年比93%、平均単価はkg ¥82前

年比67%。長崎物は214トン前年比153%、平均単価はkg¥99前年比78%となっている。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の3月の玉葱販売量は、7,173トン前年比109%（前月比104%）で前月に続き前年比、前月比ともに増となった。北海物は産地在庫が豊富で潤沢な入荷であったが、愛知物は予想されたほど増えなかった。主力は北海物で、販売量は6,042トン前年比122%、占有率は84%で前年比9ポイントダウン。愛知物の販売量は556トン前年比108%、占有率は8%前年も8%で変わらず。静岡物は455トン前年比46%、占有率は6%で前年比9ポイントダウン。総平均単価はkg77前年比66%（前月比97%）で、前年比・前月比ともに安値となっている。北海物は前年比安、静岡・愛知は前年比高であった。産地別では、北海物はkg¥65前年比60%、愛知物はkg¥130前年比102%、静岡物はkg¥150前年比102%となっている。

4月に入ってから、愛知物の入荷は、急増せず予想を下回った。球流れは2L、Lで70%を占め豊作型である。品質は良好だが2Lの販売に苦戦。北海物は、20kg¥1,000前後の水準に値下がりしたことで、コロナウイルスの影響に依る買い溜めで、末端需要が回復し在庫が減少した。此処に来て、愛知物の入荷は増加傾向であるが、球流れは大粒で2Lが40%を占めている。地産地消を掲げ勉売するも荷動きが鈍く、完売出来ず売れ残りが発生している。北海物の入荷は減少傾向だが、荷動き鈍化で在庫が増加している。入荷は5月一杯続く予想で、新物との棲み分けが困難になり、新物・ヒネ物ともに販売に苦労が絶えない。

大阪本場

大阪中央卸売市場本場の3月の玉葱の販売量は、4,202トン前年比11

3%(前月比87%)で前年比増・前月比減となっている。在庫の多い北海物と兵庫の冷蔵物の入荷は予想を上回ったが、前進化していた長崎・佐賀物の入荷は、予想ほど伸びず前年を下回った。主力の北海物は、2,866トン前年比139%、占有率68%前年比13ポイントアップ。長崎物は779トン前年比96%、占有率19%前年比3ポイントダウン。兵庫物は338トン前年比138%、占有率は8%で前年比1ポイントアップ。佐賀物は115トン前年比54%、占有率は3%で前年比3ポイントダウン。総平均単価はkg ¥73前年比56%(前月比95%)で軟調相場が続いた。産地別では、北海物はkg ¥51前年比39%。長崎物はkg ¥120前年比95%。兵庫の冷蔵物はkg ¥120で前年比75%。佐賀物はkg ¥107前年比95%。となっている。

4月に入ってから、佐賀・長崎物の入荷は予想を下回り減少傾向となったが、北海・兵庫物の入荷が増加し、供給過剰傾向が続いている。例年のことだが、淡路物の入荷が始まると、九州物に比べ地域ブランド力の高い淡路物が高値、佐賀・長崎物が安値となる。北海物は入荷増ながら、安値が受けてそれなりの動きとなった。コロナウイルスの影響で、量販店など小売りの引き合い強く需要が堅調だが、学校給食・業務需要が低迷し、需要の二極化現象が続いている。此処に来て新玉の動きが低迷し、投げ売り状態で、府県の新物・北海物ともに出荷経費にも満たない相場に転落している。

1日～20日の入荷量は3,058トン前年比111%、平均単価はkg ¥57前年比48%。産地別では、北海物が1,820トン前年比148%、平均単価はkg ¥40前年比34%。佐賀物が540トン前年比68%、平均単価はkg ¥75前年比64%。長崎物が391トン前年比77%、平均単価はkg ¥88前年比75%。兵庫物は279トン前年比134%、平均単価はkg ¥84前年比58%。となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の3月の玉葱販売量は、2,592トン前年比110%(前月比126%)で、前年比、前月比とも大幅増となっている。内容は北海物が大幅増となったが、九州産の新物は前年を大きく下回った。主力の北海物は1,638トン前年比143%、占有率は63%前年比15ポイントアップ。長崎物が541トン前年比86%、占有率は21%前年比6ポイントダウン。中国物が177トン前年比72%、占有率7%前年比3ポイントダウン。佐賀物が118トン前年比46%、占有率は5%前年比6ポイントダウン。総平均単価はkg¥84前年比71%。(前月比94%)。産地別の平均単価は、北海物がkg¥69前年比52%、長崎物はkg¥118前年比105%。中国物はkg¥90前年比115%。佐賀物はkg¥104前年比100%となっている。

4月に入って、入荷は前年を下回り、北海物の在庫はほぼ解消した。新玉の入荷は、長崎物が減少傾向に、佐賀物は増加傾向となり、月半ばには、佐賀物主力の販売となった。北海物は、北みらい主力で潤沢な入荷が続いたが、いずれも市況は続落歩調となり、銘柄格差が広がった。コロナウイルスの影響で、密集を避けるために固定競売から、移動競売と相対販売に移行した。昨今では、佐賀物はプライスリーダーとなるJAの銘柄品(10kg)をセリ上げるも、買手が追随しなくなり、L・M¥500~400が精一杯。その他の銘柄は¥300中心で¥100の安値もある。長崎のJA県央物は品質良好で¥500に売られている。北海物は、JA北みらいが主力だが、今月一杯の入荷で終了予定。此の先GWの休日で、運送業者の間では関東向けは、帰り荷が確保出来ないことで減便となる。ために、九州市場の入荷が増加し販売に悩まされそうだ。

1日~20日の販売量は1,601トン前年比84%、平均単価はkg¥79前年比68%で、前年に比べ北海物が増加し、九州産の新物が減少した。

4月25日(土)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷133トン ◎コロナの影響で競売が中止され相場取れず

【太田市場】 入荷297トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥800 ~ 700、 L大 ¥1,000 ~ 500、 L ¥800 ~ 500。

佐 賀 20kgDB2L ¥600 ~ 300、 L ¥1,000 ~ 300、 M ¥800 ~ 300。

【名古屋北部】 入荷 87 トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥1,000 ~ 700、 L大 ¥1,000 ~ 800、 L ¥800 ~ 700、
M ¥700 ~ 600。

愛 知 20kgDB2L ¥1,200 ~ 1,000、 L ¥1,500 ~ 1,200、 M ¥1,400 ~ 1,200。

愛 知 10kgNT2L ¥700 ~ 500、 L ¥900 ~ 600、 M ¥700 ~ 500。

【大阪本場】 入荷157トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥800 ~ 600、 L大 ¥900 ~ 700、 L ¥800 ~ 700。

兵 庫 10kgDB2L ¥600 ~ 250、 L ¥600 ~ 300、 M ¥600 ~ 300。

長 崎 10kgDB2L ¥600 ~ 100、 L ¥600 ~ 100、 M ¥600 ~ 100。

佐 賀 10kgDB2L ¥400 ~ 200、 L ¥400 ~ 200、 M ¥400 ~ 200。

佐 賀 20kgDB2L ¥700 ~ 500、 L ¥700 ~ 500、 M ¥700 ~ 500。

【福岡市場】 入荷103トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥1,000 ~ 600、 L大 ¥1,000 ~ 800、 L ¥1,000 ~ 800。

長 崎 10kgDB2L ¥400 ~ 300、 L ¥600 ~ 500、 M ¥600 ~ 500。

佐 賀 10kgDB2L ¥400 ~ 50、 L ¥700 ~ 100、 M ¥700 ~ 100。

供給(産地)の動き

4月は、北海産の出荷は終盤を迎え、主力は府県産の早生にバトンタッチするのが通年だが、今年は北海産の豊作による出荷の後ズレで、4月の出回り量が多く、新物とヒネ物が重なり供給過剰が深刻化した。現在も北海道産地には多くの在庫があり、道外のストックや流通段階の在庫も多い。他方、コロナウィルスの影響で、学校給食を始め業務・加工需要が低迷し、消費の流れが淀んだこともあり、市況は続落歩調を速めた。府県の早生産地は出荷の出鼻を挫かれ、危機的な痛手を蒙った。早生産地の生産者の間からは、北海物に対する恨み節が聞こえてくる。

北海道、

ホクレン、北商の1～3月の道外出荷は、前年比125%の大幅増に加えて、府県産の極早生の前進化で、供給過剰傾向が続き、市況はジリ貧状態が続いた。出荷の後ズレで4月も、大幅な供給増になったが、5月以降の出回りも過去最多となる予想。4月後半は破格の安値市況で、再生産価格を大きく下回り、生産性が低下し、収益の安定性が懸念されている。

産地では、既に今年度の定植作業が始まっている。いずれの地域も育苗は順調で苗立ちが良く、移植作業の開始は空知地区では、昨年よりやや前進化傾向で、月半ばから始まっている。その他の地区は昨年並みの今月下旬からとなっている。苗立ちが良かったことで、作付予想面積は、前年並みかやや上回りそうである。

府県産地

長崎は早生物の出荷は、諫早地区のJA県央以外はほぼ終了した。2～3月出荷は、採算に乗る市況だったが、4月後半は続落市況で、再生産価格を割り込み、稀有の痛手を蒙り、栽培意欲を喪失している。

佐賀、今年も早生は豊作型だが、昨年の大豊作に比べるとやや減収である。心配されたベト病も昨年並みに留まっているが、市況安から防除は不徹底で、腐敗病の発生は昨年より多い。現在の出荷は、早生系の「レクスター」が最盛期にあるものの、安値市況を受けて産地相場は20kg裸値2L¥50、L¥150、M¥100の破格の安値になっている。掘り取り費用はおろか廃棄費用にも満たないとして、圃場に鋤き込んでいる生産者もある。七宝早生以降になれば、短期ストックは可能だが、棚もちの悪いレクスターではストックが出来ないので、即出荷以外に良い手立てはない。ただ、七宝も適期収穫では肥大が進み、安値の2Lの比率が高くなり、収益低下につながるとして、生産者の間では早採りの傾向にある。昨今、佐賀では、玉葱栽培は採算に合わない作物に位置付けられ、栽培意欲は著しく減退している。

兵庫、4月の南淡路農業普及センターの定点調査報告。「たまねぎの生育・病害虫発生状況について」によると、定植期以降の温暖な気候により、草丈・葉数ともに期間を通じて平年及び昨年を上回っており、生育が旺盛である。病害の発生状況では、ベト病については、現在まで発病は平年より少なく推移しているが、既に2次感染が確認されている。例年5月に入ると発病が拡大する。センターでは、発病拡大前の発病株の抜き取り、基幹防除の徹底を提言している。また、細菌性病害（腐敗病・軟腐病）及び灰色腐敗病の発病は平年より多めであり、発病株の抜き取りと適正処分、基幹防除の徹底を提唱している。直近の作柄概況は、極早生で多収穫品種の「レクスター」の生育は1週間程度前進化し、収穫が始まっている。圃場格差はあるものの、球流れは大粒傾向で昨年に次ぐ豊作型である。昨今の破格の安値市況を反映して、産地相場は、生産者切り落とし20kg裸値¥400～300(2L～M)に値下がりがりし、採算割れの安値になっている。極早生のレクスターはストック出来ないのも、相場に拘わらず

即出荷せざるを得ないが、収穫が普通早生の七宝7号に移行すれば、短期貯蔵が可能となり、出荷調整が始まる。此の先、新型コロナウイルス問題や北海物の在庫増問題など難問が多いが、産地関係者の多くは、市場相場は今が底と踏んでいる。

輸入動向

3月の輸入は、速報値で18,313トン前年比70%と減少しているが、コロナウイルスの影響と市況安で輸入が激減すると予想されていたが、回復に転じている。3月も主力は中国物で輸入量の95%を占めている。中国物は17,436トン前年比76%、ニュージーランド物が450トン前年比63%、タイ物が242トン前年比40%、アメリカ物が184トン前年比10%。で予想を上回った。中国では、4月以降は現地の出荷体制は整いつつあるが、新型コロナの影響で、日本サイドでは予想以上に加工・業務向けの需要が低迷し、日本市場は破格の安値に落ち込んでいることや在庫増から、発注を見送っている。4月の輸入は3月よりも減少する見込みである。

中国、雲南省が出荷期を迎えているが、輸出、内需ともに低調で、現地価格が安く、生産者の圃場廃棄が始まっている。と聞く。現在の日本向け価格は、剥き玉20kg・C&F・\$5.00 に値下がりしている。後続産地の江蘇省、山東省も生育は順調で平年作亦はやや上回る予想と言う。

5月の市況見通し

4月の市況は、北海物の潤沢な出回りと、新型コロナウイルスの影響で、加工・業務需要が減退し、市場相場は期待に反し底なしの続落相場となった。いずれの産地も、生産者手取り金は出荷経費にも満たない深刻な安値に落ち込んでいる。5月も北海物の出回りは前年比150%以上と予想され、コロナウイルスの感染が沈静化しない限り、市況の大幅な回復は望めない。特に、需要の過半数を占める加

工・業務需要の回復が鍵を握ることになる。現在は冷食向けはそれなりに動いているものの、外食向けは激減している。5月6日に外出自粛が解除されれば、人々の交流が活発化するとともに、月後半の市況は回復に向かうが、延期となれば、需要の回復は期待出来ず、市況の回復も覚束ない。コロナウイルスの様な、過去に経験のない災難に見舞われたことも問題だが、玉葱生産が北海道に一極集中することにも問題がある。(了)